

リゾートホテル建設問題を抱える白保地域の観光事業者が協力し行った 観光客向けの景観アンケートについて

「白保の魅力はサンゴ」だけではない。「農村景観」は観光財産。保全を県・市に働きかけ

私たち白保リゾートホテル問題連絡協議会は、白保地域の観光事業者の協力を得て、観光客を対象に独自に景観についてのアンケートを行いました。地域の観光事業者が協力してこういった取り組みを行うのは、市内でも過去に例のないことだと思われます。その結果、白保地域の景観がこれまで一般に把握されていなかった観光面での魅力を持っていることや、将来に向けて必要なものが明らかになりました。それは石垣市が持続的な観光を経済の柱としていくために、景観が重要な要素であることを示すとともに、現在の景観行政と観光行政にギャップがあることも示しています。

そして、白保の新たな取り組みと結果を白保地域だけのものとせず、市民全体で共有し、沖縄県と石垣市の観光振興と特色ある各地域の景観保全がきちんと連携した都市計画行政として実施されるように、メディア各社には積極的に取り上げていただけるとありがたいです。

【アンケートの概要】

実施時期 2019年7月1日～16日

実施場所 白保地域内のゲストハウス、シュノーケルエコツアー、カフェ、白保日曜日

実施方法 来場者に個別に依頼して、その場でアンケート用紙に記入してもらい回収

質問内容 別紙参照

有効回答 336

評価 集計結果から直接的に読み取れるものをまとめた。

【集計結果の利用について】

集計結果は、協力観光事業者と共有するだけでなく、白保公民館に報告するとともに、日本景観学会会員の識者にも報告。観光振興に取り組む沖縄県、石垣市に持続的な観光振興のために、景観保全策が重要なことを示し、かつ別紙のような課題があることを示す重要な資料として利用する。

【集計結果と評価】、【課題】は裏面。

以上

白保リゾートホテル問題連絡協議会について

当協議会は、白保地域の住民を中心とした約50名の団体です。白保公民館傘下・関連4団体（白保魚湧く海保全協議会、白保ハーリー組合、白保日曜日運営組合、NPO夏花）から成り、白保地域の環境保全活動に関わっています。

<協議会HPは「白保リゾートホテル問題」で検索できます。>

観光客向け「白保の景観についてのアンケート」(2019年7月実施)

【集計結果と評価】

1. 初めて白保を訪れている人が多い。
石垣島、白保が目的地として関心を持たれていることを示している。
2. 回答者の半数は、サンゴ鑑賞が目的ではない。集落景観も白保の魅力。
白保へは、シュノーケル観光が目的で訪れる観光客が多いと見られがちだが、実は、昔ながらの集落を中心とした農村景観が高く評価されていて、沖縄らしさを感じられる観光の目的地になっている。
3. 白保集落周辺の農村景観に価値を認め、将来も残すことを希望する回答者が多く、持続的な観光経済の基礎となるリピーター客の獲得・維持には景観保全が非常に重要。

【課題】

1. **リピーター確保による「持続的な観光」の確立**
観光経済が自治体自立のための重要な柱となり、観光振興が経済的にも重要な行政施策となっている沖縄県と石垣市では、優先されるべきなのは「持続的な開発」ではなく、リピーターの確保による「持続的な観光」であるはず。
2. **観光客が求める沖縄らしさの景観保全策が不十分で、守るべきところが守られていない。**
沖縄県や石垣市は、観光客が求める白保の魅力を保全するための施策を実施していない。昨年、石垣市風景計画が変更され、広い範囲で規制が緩和された。白保集落の周辺地域は原則7mの高さ制限が撤廃されてしまった。観光開発や都市化が懸念される現在、早急な保全策を実施しなければ、観光客が求める白保地域の魅力が失われてしまう。
3. **都市計画のゾーニングと観光振興、景観保全のゾーニングを一体のものにするべき。**
沖縄県の石垣都市計画、石垣市の総合計画、都市計画マスタープラン、観光基本計画、石垣市風景計画で、より整合性のある保全計画の立案が必要。県の石垣都市計画では、白保集落は「景観地区の指定検討」と記載されているが、石垣市風景計画では白保地域は集落内の建築物の高さ基準は10m(およそ3階建て)で、周辺地域は原則7mだった高さ制限が広範囲に撤廃された。一貫性のある都市計画とはいえ、保全効果もない。
4. **観光客数増加は目的ではない。市民のために多様性のある地域景観(自然・文化)を。**
白保をはじめ、石垣市の各集落は独自の歴史に裏付けられた伝統・文化を育んでいる。文化景観として地域の多様性があるから、観光面で魅力的な石垣市が形成されている。単に観光客増加、受け入れ施設充実だけを重視した観光振興策では、地域の土台であるコミュニティーの継続性が途絶えてしまいかねない。住民の暮らしと伝統文化を未来に継承することを優先するべき。それが結果的に持続的な観光につながる。

以上。